

卒業論文執筆要綱

(言語学・応用言語学専門分野内規)

九州大学文学部 言語学・応用言語学専門分野 2009 (平成 21) 年度

- (1) 書式：原則としてワープロを用い、横書きとする。A4版で、横40字×縦35行＝1400字(フォントサイズ11pt)を1枚とする。フォントは、原則的に日本語は「MS明朝」、アルファベットは「Times New Roman」を使用する。マージン(余白)は上下各30ミリ、左右各25ミリとする。製本して提出すること(製本機は研究室にある。製本用紙1部200円)。
- (2) 表紙：表紙には 題目・専門分野・学生番号・入学年度・氏名・提出年月を記入する。副題がある場合は題目の下に副題を記入する。入学年度は「200x(平成○)年入学」と記入し、提出年月は「2010(平成22)年1月提出」と記入する。
- (3) 背表紙：背表紙には氏名・提出年(西暦・半角アラビア数字)・題目を印字したラベルを貼る。
- 4) 題目：内容を的確に表すものとするよう留意すること。題目は11月30日(月)に学生第一係に届けたものと完全に同じでなければならない。届けた題目に加えて、一・一・一のような副題を付けてもよいが、あまり長くないように留意する。なお、題目に余計な「」を付したりしないこと。これは、11月30日の題目提出の際にも注意すること。
- (5) 要旨：表紙の次頁に、本文の内容を簡潔にまとめた要旨を400字程度で記す。
- (6) 目次：要旨に続けて目次を付ける。また、各章には簡潔な表題を付け、内容を概観できるようにすること。
- (7) 本文：内容に応じて、適切に章・節に分けていく。各章において以下の点に留意する。
[章番号は0. または1. から始める。下の例における章の立て方、章の表題は、あくまで説明のためのものである。特に「本論」の部分は、実際にはいくつかの章に分かれ、扱おうとする現象に即したタイトルになるであろう]

0. 序章 (はじめに)

⇒ 問題点を明確に述べる。すなわち、何が分からないのかをはっきりさせる。次に、なぜそのことが問題となるのかを述べる。そして、その問題をどのように解決していくのか、論文全体の方針を明確にする。さらに、当該の卒業研究が(応用)言語学のどの分野のどのような研究として位置付けられるかを明確にする。

1. 従来の研究のまとめ

⇒ 当該の研究分野において従来どのような研究がなされてきたのかを述べ、その問題点や当該の卒業研究がそうした従来の研究とどのように異なっているのかを述べる。

2. 本論

⇒ 解明しようとする問題に対して、どのようなデータがどのように関与しているのかを明確に述べる。論文全体の論旨の流れがはっきりと分かるように書く。すなわち、提

起された問題と提案された結論との間が無理なく整合性を保つように書くこと。

3. 結論

⇒ 結論並びに結論へと至る道筋を論理的に明確に述べる。

- (8) 頁数：本文の第1頁から頁数を記入する。
- (9) 枚数：基準は論文本文で400字詰め原稿用紙換算40枚程度。要旨・目次・注・参考文献等は数えない。
- (10) 書き方：基本的な表記法を確認しておくこと。特に、行頭にくる句読点は前の行の行末にぶらさげることや、例文番号以外の（）・「」・『』などは1字分を用いること、改行の後の行頭は1字下げにすることなどに注意する。誤字・脱字・当て字・文法の誤り等は減点の対象となるので気を付けること。
- (11) 引用：論文や著書などから引用する場合には、例えば、
早田（1985: 42）は、「...」と指摘している。
Sakamoto（1990: 731-732）によればこの現象は(49)のように一般化できる。
などのように記す。あまりに長い引用は避けるようにする。
※ 卒業論文は研究論文なので、無断引用が判明した場合には直ちに不合格とする。
- (12) 注：注の必要な場所に番号を記し、脚注、または本文の末尾にまとめた注のいずれかにする。
- (13) 参考文献：（編）著者名・発行年・著書（論文）名・出版社名などを明記する。下記の例に準ずること。配列は、和文文献のみの場合は著者のあいうえお順とするが、それ以外の場合は著者のアルファベット順とする。引用文献は、参考文献に含めてもよいし、別立てにしてもよい。
- 【参考文献の例—和文・欧文の両方がある場合—】
Chomsky, Noam (1986) *Barriers*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
稲田俊明 (1989) 『補文の構造』東京：大修館書店。
菅 豊彦 (1996) 「規則の了解」『人間科学』2: 1-18. 九州大学文学部。
Sakamoto, Tsutomu (1990) Metaphorical Manipulation of Classifiers in Japanese. In: Osamu Sakiyama and Akihiro Sato (eds.) *Asian Languages and General Linguistics*, 725-749. Tokyo: Sanseidou.
- (14) 添付資料：特に必要な場合には別冊にして資料を添付してもよい（データや図版などで10頁を越える場合など）。添付資料にも論文と同じ形式の表紙を付ける。音声資料などのCDなどは、裏表紙の内側にポケットを作り、その中に入れる。
- (15) 締切日：2010年1月8日（金）17時の締切を厳守すること。締切当日は製本機の利用者が多いことが予想されるので、余裕をもって行動すること。締切を過ぎたものは一切受け付けられない。
- (16) 卒論試問：2010年1月27日（水）13時から卒業論文発表会がある。発表用のハンドアウト・卒論のコピー及び必要と思われる資料を用意しておくこと。

以上